

武道授業

実践の概要紹介

愛媛県松山市における 中学校武道授業の取組

松山市教育委員会

松山市は、愛媛県の中央にある松山平野に位置し、人口約52万人を要する四国最大の都市である。古くから松山城を中心発展してきた城下町で、日本最古といわれる名湯、道後温泉があり、俳人正岡子規や文豪夏目漱石ゆかりの地で、俳句や小説「坊っちゃん」「坂の上の雲」などで知られる文学の町でもある。

また、平成26年には、国が訪日外国人旅行者の受け皿として、京都から広島、瀬戸内海をめぐり松山に至るルート「新ゴールデンルート」に選ばれるなど、国内外から注目を集めている。

これらの恵まれた地域資源を活用し、持続的なまちづくりを実現するため、「一人でも多くの人を笑顔に 幸せ実感都市 まつやま」を目指して様々な取組を進めている。そのような中、松山市教育委員会では、平成26年に「第3次まつやま教育プラン21」を策定し、その中で10の施策方針を示し、生きる力を育む学校教育を推進している。

1 はじめに

松山市立29中学校の武道履修状況は、柔道12校、剣道17校、相撲3校、なぎなた2校（5校が2種年間、文部科学省の委託事業である）となっている。

松山市では、平成21年度から3年間、文部科学省の委託事業である「中学校武道必修化に向けた地域連携指導実践校事業」を活用し、武道用具の整備や指導の充実を図るための研究を進めてきた。また、平成23年度に、市立29中学校の武道履修種目にあわせて、武道用具を購入し、平成24年度から指導者の派遣を行い、安全で楽し

る「中学校武道必修化に向けた地域連携指導実践校事業」を活用し、武道用具の整備や指導の充実を図るための研究を進めてきた。また、平成23年度に、市立29中学校の武道履修種目にあわせて、武道用具を購入し、平成24年度から指導者の派遣を行い、安全で楽し

室C（別紙案内図参照） 柔道場・相撲場

〒101-0047 東京都千代田区内

神田2-1-8

電話03-3256-8444

（JR・地下鉄神田駅から徒歩5分

地下鉄大手町駅A2出口から徒歩

5分）

5 参加対象

中学校及び高等学校の保健体育科教員及び学校における運動部活動（相撲）の指導者（外部指導者を含む）。

6 内容

(1)解説「学校体育における武道指導のあり方について」

スポーツ庁政策課教科調査官 高橋修一

(2)講義

①「相撲の特性」明治大学教授 桑森真介（公益財団法人日本相撲連盟中学校相撲授業指導法研究委員会 会長）

②「中学校武道授業必修化の現状と課題」相撲について」

東京都立足立新田高校主幹教諭

満留久摩（公益財団法人日本相撲連盟中学校相撲授業指導法研究委員会 委員長）

③「指導計画と学習指導」東京都立足立新田高校主幹教諭 満留久摩

（公益財団法人日本相撲連盟中学校相撲授業指導法研究委員会 委員長）

④「相撲授業の事例発表Ⅰ」

山梨県富士吉田市立下吉田中学校 教諭 廣瀬理奈

⑤「相撲授業の事例発表Ⅱ」

山梨県富士吉田市立明見中学校 教諭 入倉裕司

⑥「相撲の安全管理Ⅰ」事故防止対策と対処法」

長野県木曾町立三岳小学校 校長 安藤均（公益財団法人日本相撲連盟中学校相撲授業指導法研究委員会 委員長）

静岡県体育協会 松浦麻乃（公益財団法人日本相撲連盟中学校相撲授業指導法研究委員会 委員長）

③「指導案による指導例Ⅱ」対人技の指導」

東京農業大学 小松勝彦（公益財団法人日本相撲連盟監事）（東京農業大学相撲部監督）

盟普及指導委員会副委員長）

②「指導案による指導例Ⅰ」相撲あそびと基本動作」

山梨県富士吉田市立明見中学校 教諭 堀内弥（公益財団法人日本相撲連盟中学校相撲授業指導法研究委員会 委員長）

静岡県体育協会 松浦麻乃（公益財団法人日本相撲連盟中学校相撲授業指導法研究委員会 委員長）

③「指導案による指導例Ⅱ」対人技の指導」

東京農業大学 小松勝彦（公益財団法人日本相撲連盟監事）（東京農業大学相撲部監督）

7 日程（別表）

8 問い合わせ先

公益財団法人日本相撲連盟

〒169-0073 東京都新宿区百人町1-15-20

TEL 03-3368-2211

TEL 03-3368-2211

FAX 03-3368-0440

日程

	9:30	9:50	10:00	11:00	11:40	12:40	14:30	16:00	16:40
2/18 (木) 1日目	受付	開講式	解説	(2)-② 講義 【必修化現状と課題】	昼食	(2)-③ 講義 【指導計画と学習指導】	(2)-④ 講義 【相撲授業の事例発表Ⅰ】	(3)-① 講義・実技 【相撲の安全管理Ⅱ】	
2/19 (金) 2日目	(2)-① 講義 【相撲の特性】	(2)-⑥ 講義 【相撲の安全管理Ⅰ】	(2)-⑤ 講義 【相撲授業の事例発表Ⅱ】	昼食	(3)-② 講義及び実技 【指導案による指導例Ⅰ】	(3)-③ 講義及び実技 【指導案による指導例Ⅱ】	質疑応答		

6	<ul style="list-style-type: none"> 面を着けて面抜き面、面返し胴、小手抜き面 身に付けたしかけ技による判定試合。 	<ul style="list-style-type: none"> 判定試合の示範 個別支援 ※安全面の配慮 (受け、とりの行い方等)
7 8 9 10	<p>相手の攻撃に対し瞬間的に判断し、反射的に技を出すことを重視して、試合を楽しもう。</p> <p>(1) 攻防の練習 (地稽古)</p> <ul style="list-style-type: none"> 自分にあつた得意技づくり 攻撃的打突を中心とした技を積極的に出す。 仲間の良いところを評価し伝え合う。 <p>(2) 試合</p> <ul style="list-style-type: none"> 有効打突や判定試合基準を確認する。 団体戦、個人戦 	<ul style="list-style-type: none"> 得意技づくりへの個別支援 有効打突、一本の意義 試合の運営と試合後のアドバイス ※安全面の配慮 (試合の進め方、活動場所の安全)

(4) T1 と外部指導者の役割を明確にした本時の展開

学 習 活 動	時 間	○指導上の留意点 ◎評価 ●指示・支援	
		教師 (T1)	外部指導者 (T2)
1 集合整列・黙想・挨拶をする。 (胴・垂を着装した状態で集合する。)	2	○グループごとに、リーダー中心に行わせる。	●着装の支援を行う。
2 準備運動、基本の動作、約束稽古を行う。 (1) 剣道体操 (2) 既習した基本の動作、約束稽古 ・足さばき ・正面素振りと一挙動、正面打ち ・小手一面打ち、胴打ち	10	●正確な動作のポイントを確認しながら師範をする。 ○基本動作が攻防の展開につながることを意識させ、正確に行わせる。	●個別支援を行う。 スムーズに動けない生徒や正しい動きへの助言を行う。
3 本時の学習課題を確認する。 相手の動きに合わせて、タイミングよく打突しよう。	2		
4 攻めや崩しに対する相手の変化をとらえた打突の練習を行う。 (1) 一足一刀の間合いからの打突。 攻め (一歩入る) ・相手の剣先が上がる→小手打ち ・相手の手元が上がる→胴打ち (2) つばぜり合いからの打突。 崩す (押す) ・相手の構えが崩れる→引き小手 ・相手の手元が上がる→引き胴 示範① T1…打つ側 (攻め・崩し → 打突) T2…打たせる側 (攻め・崩しに対して → 隙をつくる)	18	○打つ側の、打ち込むタイミングに対して声をかけ合うよう助言する。 ◎仲間と協力し、教え合いながら活動することができる。 【関心・意欲・態度】 (観察) (努力を要する生徒への支援) ・動き方やポイントを個別指導し、スムーズに活動できるようにする。 ・キーワードを伝え、その言葉を使って話合いができるようにする。	○打たせる側は攻めに対し、大きな動作で剣先を上下に動かしたり、手元を上げたりするように助言する。
5 攻めに対して、相手の動きに合わせた判定試合を行う。 (1) 一足一刀の間合いからの打突。 (2) つばぜり合いからの打突。 示範② T1…審判 (声) T2…審判 (タイミング) 審判の仕方や試合者の動きを確認する。	10	○示範をすることにより、判定基準を明確にさせる。 ●1～5班の指導・支援を行う。 ◎相手の動きの変化に応じた、しかけ技ができる。	●大きな動作で分かりやすい示範を行う。 ●6～10班の指導・支援を行う。

2

研究実践1 松山市立内宮中学校「剣道」
(平成27年度松山市授業力向上研修会)

い武道授業の充実に努めている。そこで、本年度、生徒の意欲や技能の向上のため、外部指導者の重点指導内容や研究の視点を明確にして公開授業、研究協議を行い、武道の授業改善に取り組んだ市内2校の実践事例を紹介する。

(1) 学年…3年生男子

(2) 研究の視点

- 得意技を用いて攻防するため、相手の動きに合わせて打ち込む技能を身に付けるため、外部指導者を活用して、個別支援を行う。
- (外部指導者の重点指導内容)
 - しかけ技 (小手、胴、引き小手、引き胴) の示範
 - 相手の動きに合わせて打ち込むタイミングの指導
 - 動きにくい生徒への個別支援
- (3) 単元の指導計画 下別表
- (4) T1 と外部指導者の役割を明確にした本時の展開
 - ① 目標
 - 相手の動きの変化に応じた、しかけ技ができる。【技能】
 - 仲間と協力し、教え合いながら活動することができる。【関心・意欲・態度】
 - ② 展開 次頁別表

(3) 単元の指導計画

時	ねらい・学習内容	外部指導者の重点指導内容
1 2	<p>単元の学習内容を知り、学習の見通しをもとう。 学習の心構えや進め方を理解しよう。</p> <p>(1) オリエンテーション ・学習の進め方、目標 ・グループ編成 ・安全に授業を進めるための心構え ・防具の着装の確認</p> <p>(2) 基本動作の確認 ・姿勢、呼吸、構えと目付け ・構え方と納め方、足さばき ・素振り、掛け声、間合い ・基本動作の打ち方及び受け方</p> <p>(3) 既習技による約束稽古 ・面・小手・胴 ・小手一面 面一胴 ・つばぜり合いからの引き技</p> <p>(4) 打ち込み稽古 ・連続技を打ち込む。 ・身に付けた技能を活用した地稽古</p>	<ul style="list-style-type: none"> 技能面の示範及び巡回指導 昨年度までの習得状況により、苦手としている生徒への個別支援 剣道体操の示範 礼法、防具の着脱 ※安全面の配慮 (用具の確認、活動場所)
③ 本時 4 5	<p>相手の動きに合わせて攻防し、有効な打突に挑戦しよう。</p> <p>(1) 相手の動きに合わせて打つ、しかけ技の練習 ・面を着けずに小手、胴、引き小手、引き胴 ・面を着けて面、小手、胴、二段技、体当たり技 ・身に付けたしかけ技による判定試合。</p> <p>(2) 面や小手に対しての応じ技の練習 ・面を着けずに面抜き胴</p>	<ul style="list-style-type: none"> 各種のしかけ技、応じ技示範 とりと受けの役割と動き 打ち込むタイミング



授業の様子（指導者による示範）



授業の様子（判定試合）

(4) 実際の授業の様子
単元の前半は、1年次に学習した相撲特有の基本動作を確実に身に付けるため、外部指導者がその都度丁寧に動作の示範を行った。実際に組み合せてコツを教えたりしながら練習を行った。後半は、生徒相互がタブレットPCで

(3) 単元の指導計画 次頁別表

・ 課題別活動の指導
・ 動画を活用しての個別支援

(2) 研究の視点

攻防を行う中で、自分の課題を克服するための技術的な指導を外部指導者がICT機器を活用して、個別支援する。
(外部指導者の重点指導内容)

(1) 学年・2年生男子

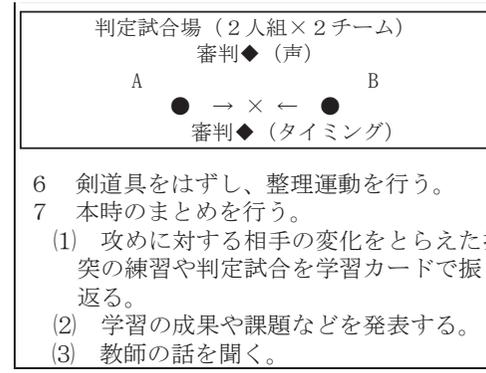
3 研究実践2

研究実践2 松山市立津田中学校「相撲」
(平成27年度第8回愛媛県中学校体育連盟研究大会)

動きを撮影し、攻防の中でよりよく動くための課題を見付け、その克服のために外部指導者が個別支援を行った。
本時は、生徒が「立ち合い」「投げ技」「土俵際の攻防」の3つの視点から課題を選択し、保健体育科教師及び2人の外部指導者から、課題別に分かれて指導を受けた。複数の外部指導者の授業参加により、生徒の課題に幅広く対応でき、生徒も自分の課題を解決するために熱心な活動が見られた。
特に、試合の様子をタブレットPCで撮影し、大型テレビで再生、試合の様子を見ながら、よいところ、改善すればいいところ、今後の練習の仕方などを大相撲のテレビ解説のように外部指導者に専門的にアドバイスしてもらいながら、自己の動きがよりよくなる



授業の様子（外部指導者による指導）



3	【技能】（観察） (努力を要する生徒への支援) ・ 本人が理解できやすい技から、個別指導を行う。 ・ 打突しやすいように大きな動きで合図を送って、打突させる。
5	○次時は面を付けての打突を行う予告をして、意欲を高める。 ●剣道具の着脱の支援を行う。 ●けが等がないか、個別支援を行う。

(5) 実際の授業の様子
保健体育科教師と外部指導者が作り出す張り詰めた緊張感のある雰囲気により、引き締まった授業が単元を通して展開された。
特に本時は、攻防の中で相手の動きに合わせて打ち込むことができるようになるためのはじめの時間で、今後得意技を身に付け、攻防を楽しむために重要な時間である。
保健体育科教師と外部指導者が動作を分かりやすく示範した後、動きをつかみにくい生徒に対して、外部指導者がわかりやすい動きで打ち込ませたり、生徒の打ち込みに対して的確にアドバイスしたりしながら技能の習得を図った。
新しい技能段階の学習の際に、今回のようにきめ細かく個別支援を行うことは、最終的に身に付けさせたい技能の習得状況を考えても大変有効であった。
生徒の授業後の感想では、85%の生徒が、剣道に対する関心が高まったと回答し、その理由として「外部指導者の先生がお手本となる技能・技術を見せてくれた」「外部指導者の先生が個別に教えてくれた」が多く挙げられており、実際に高い技能、技術を見ることが、種目に対する関心、意欲の向上につながっていると考えられる。
また、「できなかったことができるようになった」とや「勝負に勝つことができた」という回答も多く、関心、意欲の高まりが技能の向上につながり、さらに上達を目指すといい良いサイクルが生まれたことが窺える。
「分からないことがあるとき、先生が2人いて聞きやすい」「すぐに実技で説明してくれて分かりやすい」といった声からも、外部指導者の参加による授業の効果の大きさを実感している。



授業の様子（外部指導者による指導）



一人一人の技能の習得状況に応じ
T Tの形がとれることで、一
技能の高まりに伴う生徒の意欲
向上や苦手意識の改善

安全面の指導の充実
複数で生徒を指導することに
より、安全面の配慮が行き届く
ばかりでなく、考えられる危険

の体力の低下を解決するために
保健体育科の課題である若年層
の連携という側面からも大変良
いことである。

研究を重ねていきたい。

また、専門性の高い模範が間
近で見られるため、身に付けさ
せたい技能のイメージがつかみ
やすいだけでなく、「外部指導
者の先生のようにやってみた
い」、「身に付けた技能をさら
に上達させたい」など、生徒の向
上心を刺激する場面が多く見ら
れた。

教師の指導技術の向上
専門性の高い外部指導者の技
能を見たり、生徒へのアドバイ
スやその方法を観察できたりす
ること、その単元の専門性を
高められる。1人の教師が学
び、身に付けた指導技術を他の
教師に伝えていくことで、より
効果の高まりが期待できる。

運動部活動においては、生徒の
能力等に応じた技能や記録の向上
を目指したり、スポーツの楽しさ
や喜びを味わわせたりするため
外部指導者の積極的な活用をし、
運営上工夫が行われている。地域
との連携という側面からも大変良
いことである。

も、授業における外部指導者の活
用を積極的に行い、効果的な授業
を展開していくことが望まれる。
そのことが、子どもへの意欲、ひ
いては豊かなスポーツライフの基盤
を築いていくことにつながるの
はないだろうか。今後も、研修・

(1) 成果

・意欲的に学ぼうとする授業の雰
囲気作り（新鮮さ・緊張感）
・普段から学んでいる保健体育
科の教師以外の人から学ぶとい
う新鮮さが、より意欲的に授業
に取り組もうという雰囲気作り
につながる。

た個別指導ができる機会が多く
なる。苦手意識をもっている生
徒に対しても、個別指導によっ
てきめ細やかで丁寧な指導がで
きるため、小さな「できる」と
いう成功体験を積み重ねること
ができ、意欲の高まりにつな
がっている。

平日の昼間に、指導の時間が確
保できる人材を確保することは容
易ではない。警察官や教師のOB
などの武道に親しみのある方や、
教師志望の大学生といった人材の
ネットワークが必要である。

また、教師側の意識として、打
ち合わせや共通理解に時間や手間
がかかり、面倒であるという意識
が少なからず存在する。それは、
教師の多忙という根本的な問題に
もつながっている。

4 今年度の取組の成果と課題



授業の様子（タブレットPCの活用）



授業の様子（動画から技術指導）

(3) 単元の指導計画

時	ねらい・学習内容	外部指導者の 重点指導内容
1 2 3	<p>相撲の特性や学習のねらいを理解し、学習の進め方や約束を確認しよう。</p> <p>(1)オリエンテーションをとおして学習の見通しを持つ。 ・特性、ねらい、計画、評価の内容等の確認 ・ルールやマナー、健康安全の留意、用具の確認 ・相撲体操、まわし着用の仕方</p> <p>(2)基本動作を身に付ける。 ・蹲踞、塵浄水、中腰の構え、腰割り、四肢、調体 ・運び足（すり足）、仕切り、立合い、受け身</p>	<ul style="list-style-type: none"> 相撲の歴史や伝統的礼法、精神及びルール 相撲体操の示範 技能面の示範及び巡回指導（個別支援） <p>※安全面の配慮（受け身、つめ等）</p>
4 5 6 7 8	<p>互いに仲間の学習を援助しながら基本動作や基本動作を身に付けよう。</p> <p>(1)基本となる技を身に付ける。 ・押し、寄り ・前さばき、おっつけ、絞り込み、巻き返し ・上手投げ、下手投げ ・ルールやマナー、健康安全の留意</p> <p>(2)互いの動きを分析しながら技の練習方法を工夫する。 ・タブレットPCの操作、活用 ・約束練習、反復練習、自由練習</p> <p>(3)体格別（体重別）個人戦を行う。 ・審判の仕方、試合の進め方、礼法、ルールの確認</p>	<ul style="list-style-type: none"> 押し、寄り、前さばき等の基本となる技の示範、技能指導 動画撮影後の技術ポイント指導 相手の崩し方、技のポイント指導 努力を要する生徒への支援 <p>※安全面の配慮（組み方、頭頸部の安全）</p>
9 ⑩ 本時 11 12	<p>基本となる技を用いて、相手の動きに応じて攻防を展開しよう。</p> <p>(1)団体戦（5人制）を行う。 ・体格別個人戦を参考に5人のグループを編成 ・タブレットPCを活用しての動きの分析 ・ルールや応援の仕方、試合の行い方の再確認 ・礼法、健康安全の留意、用具の安全確認</p> <p>(2)無差別個人戦（トーナメント戦）を行う。 ・体格別個人戦や団体戦を参考に組み合わせ作成</p>	<ul style="list-style-type: none"> 課題別練習の指導 相手の攻防に応じた攻防のポイント タブレットPCを活用しての動きの分析 試合の講評 <p>※安全面の配慮（受け身、相手の尊重）</p>

5 おわりに